



# 瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

聖霊降臨の主日 B 年 (2024 年 5 月 19 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 2 章 1—11 節

第二朗読：ガラテヤの信徒への手紙 5 章 16—25 節

福音朗読：ヨハネによる福音書 15 章 26—27 節、16 章 12—15 節

## あなたがたには理解できない

今日の福音の箇所は、15 章の「イエスはまことのぶどうの木」のお話の後に続く、迫害<sup>はくがい</sup>にあっても聖霊<sup>あか</sup>が証ししてくれるとイエスさまが約束してくださっている場面、すなわち、15 章 26-27 節と、この世に聖霊<sup>かいにゆう</sup>が介入するというお話、すなわち、16 章 12-15 節の二つの部分の組み合わせで成り立っています。

特に朗読箇所の後半、16 章 12 節。

「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解<sup>りかい</sup>できない」  
にこだわってみたいです。

「理解できない」に注目してみてください。この言葉はもともと「担<sup>にな</sup>う」を意味していました。フランシスコ会訳では「耐<sup>た</sup>えることができない」と訳されています。弟子たちは、イエスさまが語る言葉の一つひとつを担<sup>た</sup>う力がないのです。つまり、イエスさまからいただいた言葉を理解し、受け入れ、それに信<sup>しんらい</sup>頼して苦難に耐<sup>ぬ</sup>えて生き抜く力がないのです。

この 12 節の原文をよく見ますと、最後に「今は」という言葉が加<sup>くわ</sup>えられています。弟子たちは、「今は」、イエスさまの言葉を受け入れるだけの力がありません。しかし、本当は自分たちの理解と力で苦難に耐<sup>ぬ</sup>えて生きていかなければならないのです。

そこで、続く 13 節で、「その方」、すなわち「真理の霊が来ると」、「真理をことごとく悟<sup>きと</sup>らせてくれる」と、イエスさまは真理の霊である聖霊を送<sup>おく</sup>ってくださることを約束してください。13 節の「その方」は、原文のギリシア語では男性形の指示代名詞となっています。意味とすれば真理の

霊を指すのでしょうか、霊はギリシア語では中性名詞ですから、中性形の指示代名詞（それ）が使われるはずですが、ここではあえて男性形で書かれています。朗読箇所**の冒頭**にあった「**弁護者**」のギリシア語「**パラクレートス**」が男性名詞だからかもしれません。あるいは、**聖霊**を**人格**をもつもののように考えているからかもしれません。

つまり、**聖霊**は神の目に見えない働き、あるいは**働きの結果の恵み**だけではなく、弟子たちと共にいてくださり、弟子たちを**支え導いて**くださる「方」でもあるのです。

この「真理の霊」である**聖霊**は、「証し」をし、真理を「悟らせ」、そして聞いたことをすべて「告げ」てくださる方です。すなわち、**聖霊**は父とイエスからいただいたものを、自分の中に取りっておくのではなく、**与え尽くして**くださるのです。

**聖霊降臨**のお祝いは、教会の誕生のお祝いでもあります。教会はいつも「真理の霊」である**聖霊**とともに歩みます。教会には**聖霊**が満ちています。教会は**組織**や**機構**だけではなく、**聖霊**が満ちた**神秘**でもあるのです。どうしても、**聖霊**の働きや、恵みに注目しがちなわたしたちですが、なにより**聖霊**は、わたしたちとともにいてくださり、わたしたちを支え、導いてくださるのです。

## お知らせ

マリア祭 5月26日 ミサ開始は午前10時半 グランドにて

- ・緑鮮やかなグランドで、野外ミサをしましょう。
- ・当日はお弁当などの販売があります。ミサ後にお弁当を楽しみましょう。

## 始業の祈り

聖霊来たり給え、信者の心に**充ち**給え  
 主の愛熱の火を我らに燃えしめ給え  
 主よ、聖霊を遣わし給え、しかしてよるずのものは造られん  
 地の面は新たにならん

祈願、聖霊の光をもって信者の心を照らし給いし天主、  
 同じく聖霊を持って我らに正しきことを悟らしめ、  
 その御慰めによりて常に喜ぶを得しめたまえ。  
 我らの主キリストによりて願ひ奉る。アーメン。